

子ども未来応援センター運営事業

—No.31 富士見市—

【事業の目的】

子供のいる家庭を包括的に支援するとともに、貧困の連鎖を断ち切ることで、すべての子供が『夢に向かってチャレンジ』できるような環境を整えることを目的としています。

【事業の内容】

○子供に関する総合相談

…どこに相談したらいいかを悩んだら、まず相談してもらい、適切な支援につながります。

○妊娠に関する支援

…妊娠届の受付、面談業務による支援が必要な世帯の抽出・つなぎ、不妊検査・治療助成、子育て応援情報モバイルサイトの運営（スマイルなび）など、きめ細やかな支援を実施します。

○子供の貧困対策

①市民運動の展開

…行政、民間、地域、NPO法人などが一堂に会するネットワーク会議で情報共有をしながら、市全体が一丸となり、地域ぐるみで子供の貧困等の問題に取り組むための周知活動と体制を創造します。

②気づき・つなぐマニュアルの作成

…生活困難な世帯に気づき、適切な支援につなぐ仕組みづくりとして、マニュアルを作成し、関係機関等への周知・啓発を進めます。

③子ども未来応援基金の設置

…社会福祉協議会に基金を設置し、市民運動と協働しながら、子供の貧困対策を実施する団体等を支援していきます。

④子供・若者の居場所づくり支援

…子ども食堂や学習支援等を行う居場所の設置などを支援します。

⑤ひとり親家庭に対する支援

…ひとり親同士の交流会や養育費相談事業などを実施します。

【事業年度】

平成 29 年度～

【予算額(千円)】

38,817 千円（平成 30 年度）

【財源】

子ども・子育て支援交付金（母子保健型）（国・県）、子ども・子育て支援交付金（基本型）（国・県）、埼玉県不妊治療費等助成事業補助金（県）、一般財源（市）

【事業実施に至った背景・経緯】

包括的な支援体制を実現し、市民の皆さんの子育てを応援するため、また、日本の子供の6人に1人が貧困という実態を受けて策定した「富士見市子どもの貧困対策整備計画」を推進するため、「子ども未来応援センター」を設置し、事業を展開しています。

【事業のPRポイント】

- ・民間企業も含めた市内のさまざまな団体、行政が一堂に会して、子供の貧困対策の協議を進める体制（子ども未来応援ネットワーク会議）そのものが今までにない視点での取組です。
- ・子どもの貧困対策整備計画を具現化していくための協議についても、庁内に限らず、関係する機関・団体等で課題ごとに、それぞれ専門調査部会を組織しており、連携強化の役割も果たしています。「気づき・つなぐマニュアル」の作成や「子どもの居場所づくり支援」などもこの部会で検討され、事業が展開されています。
- ・妊娠届の際に、必ず保健師が面談することで、出産に不安やリスクを抱えている方に早い段階で気づき、生まれる前からの支援を実施することが可能となりました。

【事業実績・成果・今後の展開】

平成 29 年度

- ・子ども未来応援センターを開設、事業開始したことにより、さまざまな機関、団体等との連携ができ、子供のいる世帯の支援をつなぐ体制づくりが進みました。

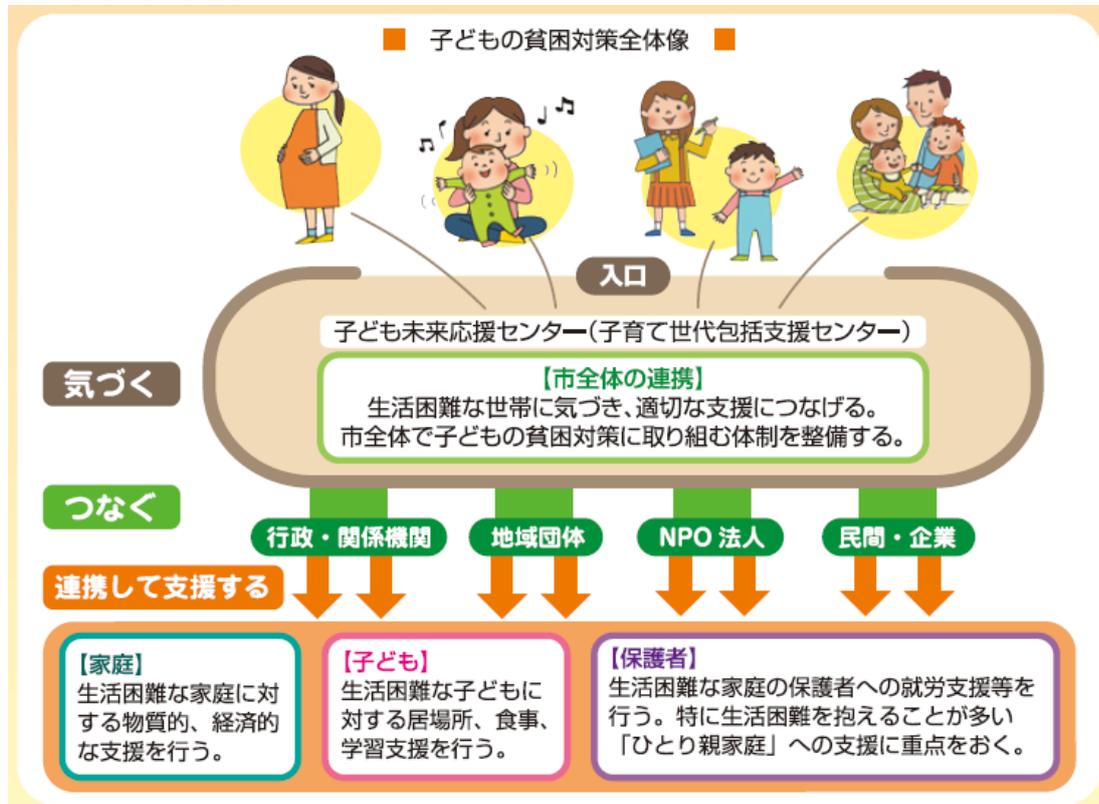
平成 30 年度

- ・「子ども未来応援ネットワーク会議」を開催し、市全体が一丸となって子供の貧困対策に取り組んでいくことを確認しました。（6月）

- ・10月に市民運動を立ち上げ、広く市民に周知することで、きめ細やかな支援を実施する機運を醸成していきます。

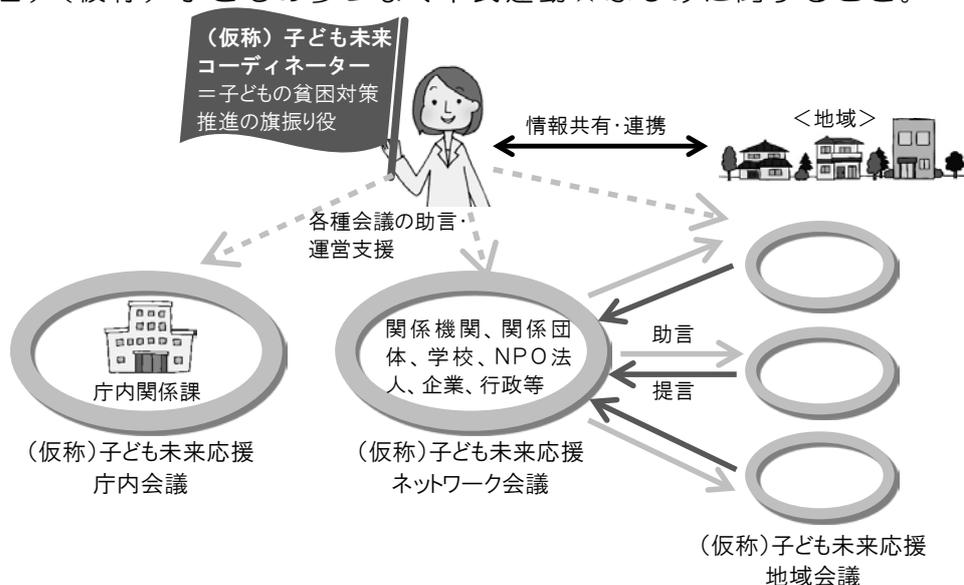
【参考資料】

子ども未来応援センター



子ども未来応援ネットワーク会議

- (1) 子どもの貧困対策に関する各種事業展開の状況把握と情報共有に関する事。
- (2) (仮称) 子どもの夢つなぐ市民運動☆ふじみに関すること。



〔 連絡先 〕

子ども未来部 子ども未来応援センター 049 (252) 3773